

## 姉妹都市フォーラムのあり方が変わりました



### 市民協働の「姉妹都市交流」「国際交流」をめざして

秋田市姉妹都市フォーラム 代表 佐藤 英明  
(特非 秋田国際交流友の会 会長)

今年度の総会が、6月15日に秋田拠点センター ALVE市民交流サロンで開催され、当フォーラム2代目の代表になりました。どうぞ、よろしくお願ひします。

さて、今年度の総会では、当フォーラムのあり方について見直し等の議事が進みました。その結果、今までの、市役所に事務局を置き、市職員が事務局を務めていたスタイルから、市民協働で姉妹都市交流・国際交流を推進する7つの関係団体のネットワークとして活動することになりました。

市民協働は、市民と市が対等のパートナーとして、地域の公共的課題の解決に向けて共に考え、協力して行動することです。

少子高齢化や厳しい財政状況など、行政を取り巻く環境は大きく変化しています。そして、これまで行政が担ってきた役割のすべてを今後も担い続けることは極めて難しくなっています。一方で、地域の公共的課題の解決を行政任せにするのではなく、自ら取り組もうとする市民や団体なども増えています。地域課題や多様化する市民ニーズに的確に対応するためには、市民の発想や創造力、得意分野を活かしながら、行政とともにまちづくりを進める「市民協働」が求められています。

このことは、姉妹都市交流や国際交流についても言えることです。それぞれの団体が培ってきた実績と自主性を尊重しながら目的を共有し、互いに役割と責任を明確にして取り組むことが姉妹都市等との確固たる深い絆づくりにつながるものと信じております。

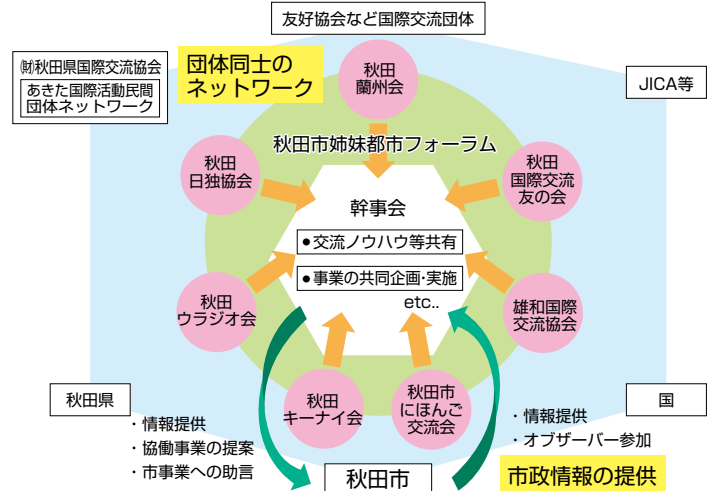
今年7月に、キナイ半島郡から靖子レイトネンさんが市の記念日式典の特別表彰のため来秋されましたが、その際の歓迎行事も、市と秋田アラスカキーナイ会、秋田国際交流友の会が役割分担をして協働で行い、靖子さん一行は、多くの市民と交流して大満足で帰国しました。

平成25年度の事業としては、あきた国際フェスティバル(9月28日) 出展と秋田市友好姉妹都市交流展(10月4日～6日)を秋田市と協働(共催)で開催します。

また、昨年まで当フォーラムが編集・発行していた情報誌「ウキパラSt.」は、編集を当フォーラムが行い、発行を秋田市が行いたいと思います。

ちょっと見は変わりませんが、中身は大きく変わった姉妹都市フォーラムです。今後ともよろしくお願ひいたします。

【新】フォーラム活動イメージ



### 姉妹都市フォーラム構成団体

特非)秋田国際交流友の会、秋田日独協会、秋田蘭州会、秋田ウラジオ会、秋田アラスカキーナイ会、雄和国際交流協会、秋田市にほんご交流会

各構成団体とも、常時、参加メンバーを募集しています。各団体の連絡先は、秋田市企画調整課国際交流担当(018-866-2033)にお問合せいただくか、秋田市姉妹都市フォーラムのホームページをご覧ください。



# 靖子レイトネンさん一家(キナイ半島郡在住)を迎えて ～秋田市が特別感謝状を贈呈～



## 秋田アラスカキナイ会事務局長 池田 玲子

米国アラスカ州キナイ半島郡（交流合意都市）在住の靖子レイトネンさんは、これまでキナイ半島郡との交流に関わった多くの方がお世話になった両市の交流のキーパーソンです。その靖子さんが、7月12日の「市の記念日式典」に秋田市から特別感謝状を贈呈されることになり、娘さん一家を伴って来日されました。

今回の靖子さん一行の滞在日程には、秋田市の職員に加えて当秋田アラスカキナイ会会員も一部に同行しました。

式典があった7月12日の夜は、靖子さんの受賞記念講演と祝賀会を、秋田市と当会が、受付や司会などの役割分担を決めて共催で行いました。祝賀会には歴代の市長も出席されるなど、20年以上にわたる靖子さんの交流への尽力がうかがわれる和やかな会となりました。

帰りは田沢湖駅で見送りをし、無事に帰国したとのこと。後日、感謝のカードが届き感激しています。

靖子さんのパワーにはまだまだ及びませんが、今後もキナイ半島郡との交流には、積極的にかかわっていきたいと思います。

▼ 靖子レイトネンさんから届いたカード

拝啓  
 さあじ暑さが続いておりますが  
 お変わりありませんか？  
 先日はお忙しい中私にお時間を頂いて心より感謝しております！  
 おいかけ様でふじの"Special Day"も終了し心な喜びです！  
 これも皆様のおかげです！  
 天候不順な折柄、くれぐれもお体とお大切に過ごして下さい  
 Sincerely  
 Yasuko Lehtinen

カいらさん（靖子さんのお孫さん）が、秋田北高校のバレーボール部と交流。チームワークの素晴らしさとチームメイトへの思いやりに感激していました。



## ウラジオストク国際青年フェスティバルに 国際教養大の学生が参加



帰国直後に学生が市長を表敬訪問（6月24日）

本市の姉妹都市 ロシア・ウラジオストク市が、世界各国の友好・姉妹都市から大学生等を招待して開催する「ウラジオストク国際青年交流フェスティバル」が6月18日から22日まで行われました。本市からは、国際教養大学の学生5名が参加しました。

### ウラジオストク国際青年フェスティバルを終えて

国際教養大学 3年 矢野 圭祐（一部抜粋）

今回はウラジオストク国際青年フェスティバルということで、日本・米国・中国・韓国・ベトナム・ロシアの6カ国の大学生が一同に介し、会議を行ったり、観光に行ったりしました。その中で、まず感じたのは各都市の広報力の違いです。

中国は各都市を紹介するプレゼンテーションの中で、必ずビデオを入れていました。学生に勝手にプレゼンを作らせるのではなく、ある程度は行政側が統率するところはいかにも中国らしかったように感じます。そのビデオの中身も開発が進んでいるところは実際の都市の風景を、そうでない都市はモデリング等を使って将来の都市計画を映像にしているところが面白かったです。

広報という点で最も印象深かったのは、もちろん開催地であるウラジオストク市です。スケジュールの大半が会議ではなく観光だったのは、ウラジオストク市を大学生にアピールするという意識が高かったからだと思います。地元の大学生の協力をもとに、ロシアの伝統的な踊りであるコサックダンスを披露してくれたり、大学生が好む場所（ナイトクラブやバー等）に連れていったりすることで、将来の貿易相手になる可能性が高い都市の学生に向けて積極的にウラジオストクをアピールしているなど感じました。

今回、ウラジオストク国際青年フェスティバルに参加したことで様々なことを学ぶことができました。上記の発見の他にも、ロシアの少数民族出身の大学生と会話ができ、消えゆく言語を実際に耳にすることができ、とてもいい経験になりました。日本にもアイヌ民族・アイヌ語の継承という問題が存在しているので、これから失われつつある言語の必要性とそれを継承するための方法についても勉強していきたいと思います。

## 医療研修員2名が、秋田で研修します

今年も蘭州市から医療研修員として、王春萍（Wang Chun Ping）さんと徐元勝（Xu Yuan Sheng）さんのお二人が来秋します。10月21日から2ヶ月間、それぞれ市立秋田総合病院の小児科と循環器内科で研修を行います。医療研修は昭和59年に始まり、これまで46人の医師が秋田で研修を行っています。

## 秋田市友好姉妹都市交流展を開催

秋田市友好姉妹都市交流展を10月4日から6日までの3日間、中央公民館（秋田市文化会館）で開催します。

会場では姉妹都市の写真やパネルを展示します。入場は無料ですので、当日はお誘い合わせの上、ご来場ください。



友好姉妹都市交流展



# 大洪水被害を受けた姉妹都市パッサウ市に、義援金を送りました



浸水被害を受けたパッサウ市

秋田日独協会会長 松田 至弘

今年5月末から6月初めにかけてヨーロッパ中央部で豪雨が続き、ドナウ川など三本の川の合流点にある秋田市の姉妹都市ドイツ・パッサウ市は、過去500年来で最もひどい大洪水に見舞われ、甚大な被害を受けました。

東日本大震災の際には、パッサウ市から秋田市へ約430万円の寄付金が寄せられ、被災された皆様を竿燈まつりへ招待させていただいた経緯があります。

秋田日独協会では、その時の感謝の気持ちを込めて、秋田市と協力して「洪水被害募金」を行うこととし、募金活動に取り組んでまいりました。

6月16日から8月25日までの募金期間には、多くの市民・企業・団体の皆様そして報道各社からご協力をいただき、お陰様で、総額で5,288,616円の寄付金を頂戴しました。

集まった募金は、パッサウ市の被災者支援と市の復旧・復興に役立てていただくため、秋田市長からパッサウ市長へ親書を送った後、8月28日にパッサウ市へ送金したことをご報告するとともに、皆様の心温まるご寄付に、心から感謝申し上げます。

なお、現在、パッサウ市のホームページには、募金への感謝のメッセージが掲載されています。

来年は、姉妹都市提携30周年を迎えますが、秋田日独協会では、今後も、両市の親善と市民間交流の促進のため、積極的にその役割を果たしていきたいと考えております。



6月16日の街頭募金活動  
(エリアなかいちにぎわい広場)

【パッサウ市ホームページ掲載記事の翻訳】(9月10日付け)

## パッサウ洪水被害に対する秋田市民の募金活動

日本の姉妹都市である秋田市は、秋田日独協会の協力のもとに、パッサウ市の洪水被害罹災者に対する支援募金活動を実施しました。

穂積志市長は先日、ドゥッパー市長に対し、「竿燈まつりの機会や市民・街頭募金、さらには、チャリティイベント開催、企業への協力要請等の活動をとおして、復旧費用に充てていただくため、総額5,288,616円＝40,205.39ユーロを集め、送金しました。」と伝えました。

同金額は、すでにパッサウ市の指定口座に振込み済みです。

ドゥッパー市長は、パッサウ市議会および全てのパッサウ市民を代表し、また、市長個人として、衷心よりパッサウ罹災市民に対する秋田市民の温かな連帯意識に感謝の意を呈しています。

市長は同時に、このたびの洪水で被った被害を復旧し、市民が再び平穏な市民生活を営むようになるまでは、今しばらく時間を要することについても言明しました。

今般の秋田市における支援活動が、罹災者に再び新しい勇気と確かな期待を抱かせたことは、申すまでもありません！

パッサウー秋田の両市は、来年、姉妹都市提携30周年を祝います。

お問い合わせは

秋田市 企画調整課 国際交流担当まで TEL 018-866-2033

秋田市 企画調整課 国際交流担当HP

<http://www.city.akita.akita.jp/city/pl/in/default.htm>